



①近藤氏のご講演及びディレクトフォース・笹川平和財団の方々とのグループディスカッション

(1)近藤氏のご講演

近藤氏は、「物は共通言語、言葉が通じなくとも物なら通じる」との信念を持っています。実際に物(義手)を通じて、近藤氏は全世界と繋がっています。自分の信念を現実にするというのは容易ではなく、それに成功した近藤氏は素晴らしい人物だと思います。

この講演で私が最も興味を持ったのは、生産・消費のスタイルの変化についての話です。情報を得るためのメディアの中心がマスメディアからネットに移り変わってきたように、ものづくりにおいても大量生産・消費から個人個人にあったものを提供するスタイルに変わってくるというのです。後の青木様の話と合わせて考えると、私が社会に出る頃のものづくりは、今とは全く違う形になっていてもおかしくありません。どのような環境にも対応できる柔軟性が必要だと思いました。

また、近藤氏は講演のなかで、様々なアドバイスを私たちにしてくれました。

- ・小さい頃持った疑問は現在に繋がる

小さい頃、左利きの近藤氏は、何故改札の切符を入れる場所が右側にあるのか、といったことを疑問に思っていたそうです。その疑問が現在の活動に繋がっているとの事で、素朴な疑問は後に重要になると分かりました。

(2)DF・笹川平和財団の方々とのグループディスカッション

まずは、五つもの企業において管理職を務めた青木様です。青木様からは私たちの質問への回答を事前にいただいていたため、話をする時間が増えました。

青木様との主な話の内容は、主に未来に向けての心構えについてでした。「人生とは航海のようなもので、様々な港(職場など)に立ち寄り、時には嵐に遭う事もある。」と青木様は私たちに言いました。学生時代とは航海のための準備期間であり、その間に三つの事をする必要があります。

1.夢中になれることを探す

2.五感に触れる

3.常に Why?

まず、1は文字通りです。2についてですが、最近はバーチャルな体験をできる場が増えているため、本物にも触れてほしいということです。3は、常に物事を疑えという事です。常識も正しいとは限らず、何でも鵜呑みにするのは最も良くありません。また、物事を疑うのは人の意見を聞くことに繋がり、自分の思考を広げる手助けになります。

また、青木様は役職上、他の人・企業との利害調整をすることが多かったそうで、双方とも満足できる解決策を考えるコツを教えてくださいました。まず、相手の意見をよく理解する。また、自分の意見もよく理解し、相手に分かりやすく伝える。そして、双方の意見の共通点を見つける。この三つが大事で、見つけた共通点を発展させていくことで良い解決策が生まれるのだそうです。

続いては、海洋政策(その名の通り海洋についての政策)に携わる樋口様です。

樋口様が研究者になった理由は、法律の綻びです。まず樋口様は弁護士になったのですが、法律を扱うようになったためか、法律の綻びに気が付き始めました。そこで、現在ある法律を批判できる、研究者になる道を志しました。そのなかで海洋政策を選んだのは、そのとき国際海洋法に一番動きがあったからだそうです。

海洋政策では環境問題にも取り組むと聞き、私は「他の分野の研究所と協力はするのか」と聞きました。各環境問題はそれぞれ関係しており、海に関する環境問題にも、海洋政策だけでは対応出来ないと考えたからです。それに対し樋口様は、もちろんと言いました。他の分野の研究所にデータを貰いに行くことは良くあるそうです。加えて、研究所はコミュニティが大事とも言いました。協力するためにはそもそも研究所同士の関係が必要だからです。

最後は、国連世界食糧計画(国連 WFP)の活動に携わる水口様です。

水口様は東レインターナショナルの常務取締役でした。しかし、「会社のように『間接的』に人々の役に立つのではなく、『直接』役に立つことをしたい」と思い始め、ネットで検索したところ WFP のサイトを見つけたそうです。

水口様の活動の目的は、「格差是正」です。アフリカなどの国々では、食糧問題を抱えています。しかし、全世界を合計すると、食糧の量は全世界の人が生活していける分を軽く

超えています。食糧が先進国にばかり流れてしまい、途上国ではろくに良いものを食べられなくなっているのです。「格差是正」とは、この問題の解消のことです。

そのような活動をしているため、水口様は海外にいることも多くあります。その水口様にとって海外で大事なことは、「違いを知る」ことだそうです。「日本の常識は世界の非常識」という言葉がある通り、日本と海外では文化に大きな違いがあります。その違いを知り、尊重することが大事だとのこと。

やはり皆さんの言葉には説得力があります。これから生きる上でも参考にしたいと思いました。

②企業訪問(コナミデジタルエンタテインメント)

企業訪問では、以下のような質問をし、回答を頂きました。

1.VR への進出についてどう考えていますか。

→興味を持っている。

2.これから、人々にどのような娯楽を与えようとしていますか。

→国や性別など関係なく、みんなで楽しめる遊び。e スポーツでは、まず会場でゲームをプレイするプレイヤー、そしてその様子を会場で観る観客、更にニコニコ生放送などで観戦する視聴者と、全員参加型の娯楽になっている。

3.数十年後の ICT 業界かどのようになっていますか。もしくは、どのようになりたいですか。

→数十年後の世界など検討もつかない。だが、「誤解なく自分の考えを受け取ってもらえる」世界になって欲しい。

4.トラブルの対処で大事なことは何ですか。

→必ず事実確認をする。何があったかというのを状況から勝手に決めつけてはいけない。

5.ゲーム制作においては文理融合ですか。

→まさにそう。しかも、幅広い知識が必要。



6.プログラミングの技術は、いつまでに習得しておくべきですか。

→入社までに最低でも一種類のプログラムを書けるようにしておくが良い。

7.ゲーム業界以外への進出には、どのような利点がありますか。

→ゲーム業界が不況な時に、他の分野で立て直せる。

8.アイデアを生み出すための工夫は何かしていますか。

→アイデアをアウトプットするにはインプットが必要。そのために映画や音楽を好き嫌いせずに聞いてみる。

9.仕事とプライベートの両立はどうなっていますか。

→社会人になってからプライベートの時間が増えた。コナミでは土日がフリーで、その間にストレスを発散できる。

また、ICT 業界の利点については、「パソコンがあればどこにいても誰でも出来る」なのだそうです。

IT が ICT という言葉に変わってゆき、コミュニケーションを重視するようになってきています。そのなかでは、徹底的に客視点でサービスを考案するのが大事とのこと。

ちなみに、コナミのアーケードゲームの始まりはジュークボックスです。コナミでもジュークボックスを作っていました。沢山の人が自分の好きな曲をかけようとジュークボックスの前に並んでいたため、「待っている間の娯楽が欲しい」との声からアーケードゲームを作るようになったらしいです。

③OB・OGの方々との対談

4人のOBの方から教えて頂いたことをまとめました。有益な情報を得られたと思います。

(1)東大の実態

まず東大のメリットとしては、研究設備が充実していることが挙げられます。東大の研究費は216億円(平成27年度)で、東北大の研究費(97億円)の2.2倍にあたります。そのため、用具を買い換えるなどということが容易にできます。

デメリットは、そこまで就職向きではない事です。東大は元々研究者、つまり一つの分野に特化した人物を養成する大学であり、普通会社では「応用がきかず、役に立たない」と言われることも少なくないようです。しかし、やはり「日本一頭がいい」というイメージがあるため、「大学にいた時間よりゲームセンターにいた時間の方が長い」などという人が一流企業に就職した、などということもあるそうです。

東大の特徴としては、講義1コマ105分、4学期制、長期休暇、進振りなどがあります。

4学期制では、それぞれの学期で時間割が変わります。この制度を取り入れている大学は少ないとのこと。

夏の長期休暇は2か月ほどあり、課題はないそうです。

特に大きな特徴は、進振りです。2年生の夏頃に学部の選択をしますが、成績が良くなければ思い通りの学部に入ることはできません。

このシステムのメリットは、大学での勉強を体験してから学部を選べるという点にあります。「理系で入学したが自分には合わなかった」などという時に、「成績がよければ」文転も可能です。

しかし「成績がよければ」という制限がついているため、興味より点数を優先し点数を取りやすい教科を選ぶ人もいる、というデメリットもあります。

(2) アドバイス

・頑張り過ぎ、頑張らなさすぎは死

今は勉強以外にもやるが多く、それらをこなした上で勉強にも全力を出してしまうと、力尽きてしまいます。但し、1・2年生の時にある程度勉強しておかなければ3年生になってから苦労します。そのため、「程々に」頑張るのが大切なのだそうです。

・ネタがないと死

一つでも(誇れるようなことでなくても)話のネタを持っておいた方が、コミュニケーションがより円滑に進むとの事です。

・ぼっちは死

これは大学入学後の話になりますが、サークルに入らなければ確実に孤立するそうです。社会に出てからも人脈はかなり重要なので、サークルなどで他人との関係を作っておくのは必須だと言われました。

④ 東大見学

OB・OG 座談会では東大の内側についてでしたが、ここでは外側、具体的には施設などについてがメインになりました。

東大の施設を一通り見てみて、まず思ったのは「建物が多い」ということです。教室のある建物に関しては十数番棟くらいまであります。しかし、実際に利用するのはその中の1部であるようで、そこまで迷うことはないそうです。

駒場キャンパス内には、巨大な図書館もあります。豊富な資料を取り揃えており、現在



までの新聞も保管されています。

その後東大を案内して下さったサークル FairWind によるワークショップがあり、プレゼンではいくつかアドバイスを頂きました。

- ・今は、大学の選び方は「なんとなく」でもよい。希望理由も後付けで

正直、私は大学選択について、焦っている節がありました。そのため、この言葉に安心させられました。

- ・自分の将来につながること、興味のあることが学べるならなおよし

- 自分が頑張れる大学か、というのは最も大切

- ・将来の目標から逆算することもある

- なんでもいいから一歩踏み出してほしい

「失敗を恐れずに」が大切なのだそうです。